

第2回 エコツアーリズム推進基本方針に関する検討会 ヒアリング資料

2025年 9月8日

てしかがえこまち推進協議会 エコツアーリズム推進部会

て し かが 弟子屈町について

- ・ 道東の中心に位置する
- ・ 基幹産業は観光と農業
- ・ 人口6,335人（2025年8月現在）
- ・ 町の65%が阿寒摩周国立公園に位置している

摩周湖、硫黄山、屈斜路湖
釧路川、温泉、森など
豊かな自然資源に恵まれた町



●特定観光自然資源（高付加価値化利用）の利用事例
アトサヌプリトレッキングツアーについて

●てしかがスタイルのエコツーリズム全体構想の現状と課題

●釧路川源流域ネットワークガイド同士の連携について

特定観光自然資源（高付加価値化利用）の利用事例

アトサヌプリトレッキングツアーについて



アトサヌプリトレッキングツアーとは

北海道・弟子屈町にある活火山「硫黄山（アイヌ語で『裸の山』）」を**認定ガイド**とともに歩く特別な体験型ツアー。

◎特徴

① **特定自然観光資源**として保護される貴重なフィールド

硫黄山に点在する**約1,500もの噴気孔**と、噴気孔周辺の鮮やかな硫黄結晶は、国が定める「**特定自然観光資源**」に指定されており、一般の立ち入りは禁止。認定ガイドの引率がある参加者だけが体験できる限定的ツアー。

②ガイドは「**てしかがえこまち推進協議会**」の認定を受け、火山の知識や歴史・植物などにも精通。ツアーでは噴気孔の迫力、採掘の歴史を伝える遺構、山並みやカルデラの景観なども案内。

◎見どころ

熊落とし：ごつごつした火口の壁を目の前に見る迫力満点のポイント。

F1噴気孔：硫黄山の中でも最大級とされる噴気孔。立ち入り制限区域の中、ツアーだからこそ見ることができる景色。

歴史的遺構やカルデラ展望：旧釧路鉄道の線路跡、硫黄採掘の名残や、国立公園の広大な景観を堪能できる。

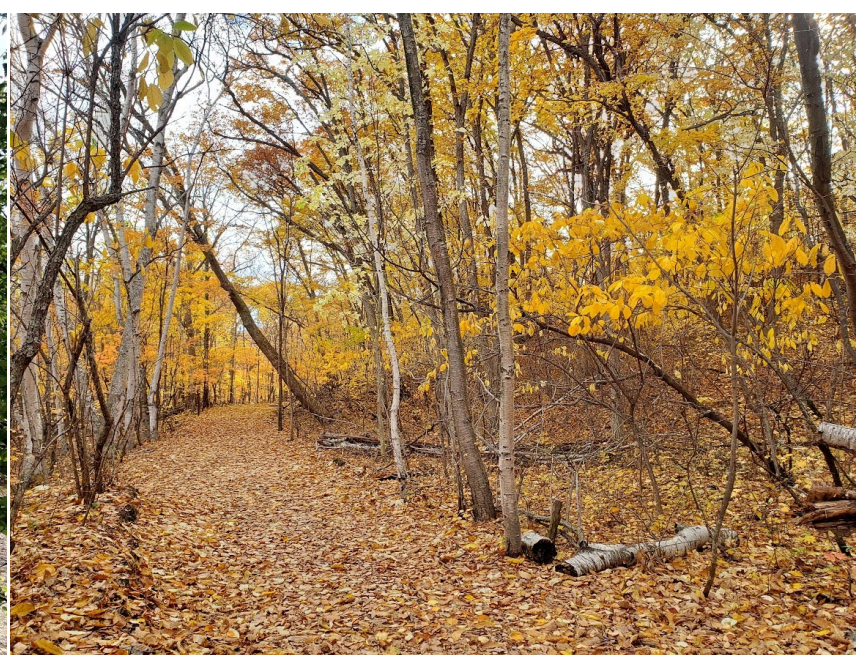
- ・ 1ガイド6名まで

- ・ ツアー時間 約3時間 9:00/13:00

- ・ 料金 ￥13,000

※参加費の一部は環境保全やコース整備に充てる （2024年度 139,800円）

- ・ 主催：摩周湖観光協会



経過

- ・ 2000年 登山中に落石事故が発生。2人死亡。以後入山禁止となる。
- ・ 2014年9月 登山再開に向け関係機関と協議開始。
- ・ 2016年7月 阿寒(摩周)国立公園が国立公園満喫プロジェクトに選定。
- ・ **2016年11月 エコツーリズム全体構想認定地域に。**
- ・ 2017年5月 実地調査登山開始。
- ・ 2019年5月 関係機関と登山再開の合意。
- ・ 2023年2月 「日本エコツーリズム大賞」受賞
- ・ 2023年 グリーンデスティネーション100に選出

◎利用者数

2019年		77名	(10/2～11/28)
2020年		70名	(9/22～11/8)
2021年	19件	75名	(7/24～11/3)
2022年	28件	176名	(6/9～11/4)
2023年	36件	172名	(5/20～10/29)
2024年	71件	233名	(5/18～11/3)
2025年	28件	110名	(5/17～7/31現在)

認定ガイド資格条件

- ・「てしかがえこまち推進協議会エコツアーリズム推進部会」に所属
- ・「北海道アウトドアガイド資格」を有する
- ・「硫黄山学」の受講
(国立公園とエコツアーリズム全体構想、気象学、火山学、リスクマネジメント、消防署との実地講習)
- ・資格取得には実際のツアーに5回帯同が必要
- ・賠償責任保険に加入

2025年は認定ガイド6名



てしかがスタイルのエコツーリズム全体構想について ～現状と課題～

てしかがスタイルの エコツーリズム推進全体構想 について

- 2008年 「てしかがえこまち推進協議会」発足
- 2012年 エコツーリズム全国大会 in てしかがを開催
- 2016年11月
全国で8番目
北海道で初めての認定地域
- 2017年7月～2019年3月（隔月）
弟子屈広報に「全体構想通信」を掲載
- 2020年9月 改訂
 - ・ モニタリング方法の変更
 - ・ 自然観光資源の「硫黄山」を細分化
 - ・ 「硫黄山の噴気孔」を特定自然観光資源として指定し、立入制限を実施

推進団体は「てしかがえこまち推進協議会」
エコツーリズム推進部会を中心とした全体構想運営委員会

てしかがえこまち推進協議会 構成図

組織図

全体構想運営委員会

「環境チーム」「教育チーム」「広報チーム」
3チームに分かれて運用。

●関係機関

- ・屈斜路カルデラふれあい推進協議会
- ・自然公園財団
- ・阿寒摩周国立公園運営協会
- ・屈斜路湖適正利用連絡協議会
- ・釧路川源流域ネットワーク
- ・ペンション民宿等ネットワーク
- ・てしかが森林組合
- ・津別町
- ・美幌町
- ・大空町
- ・小清水町

●指導・助言・支援

- ・環境省川湯事務所
- ・林野庁根釧西部森林管理署
- ・釧路開発建設部河川事務所
- ・弟子屈消防署 川湯支所
- ・てしかが警察署
- ・国土交通省釧路運輸支局
- ・釧路振興局
- ・玉川大学



現状と課題

●現状

- ・モニタリングの実施

釧路川源流・・・釧路川源流域ネットワーク

アトサヌプリトレッキングコース・・・てしかがトレイルクラブ

摩周岳登山道・・・てしかがトレイルクラブ

- ・特定自然観光資源を用いたツアーの実施

アトサヌプリトレッキングツアー

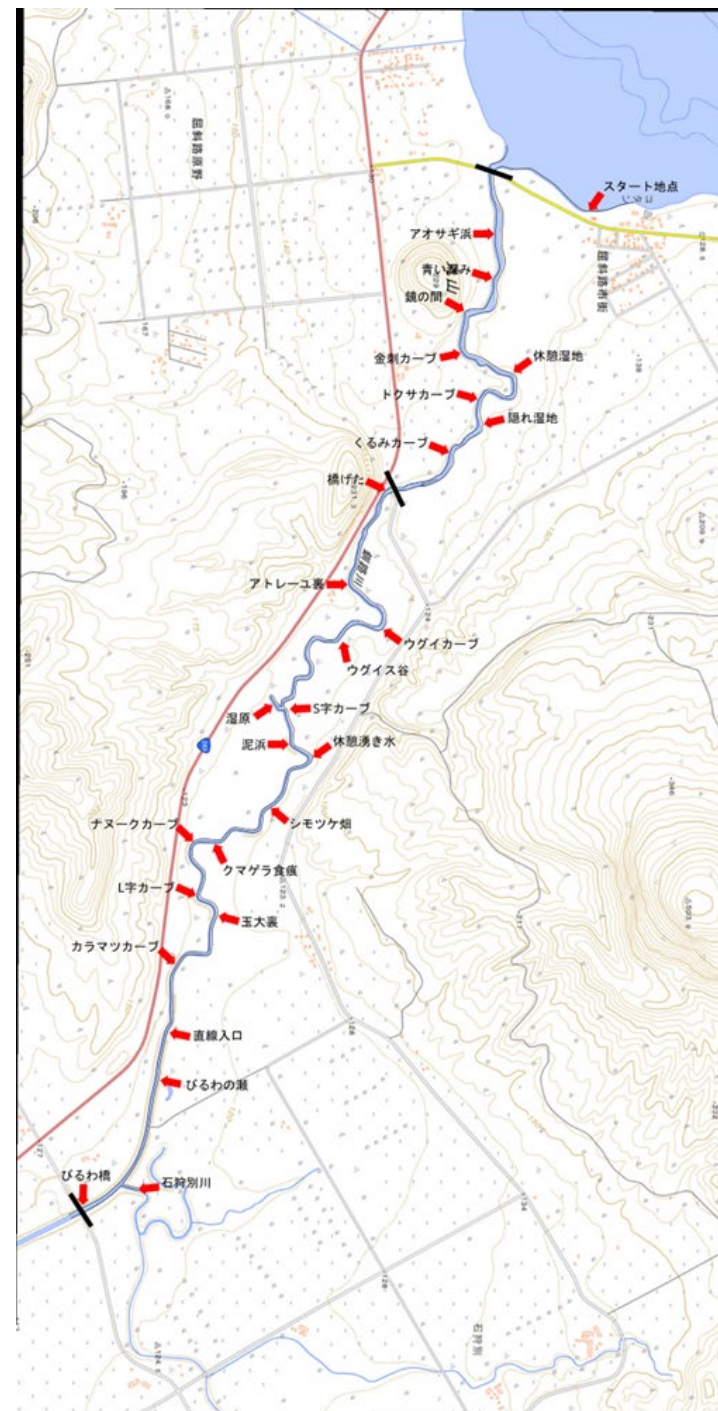
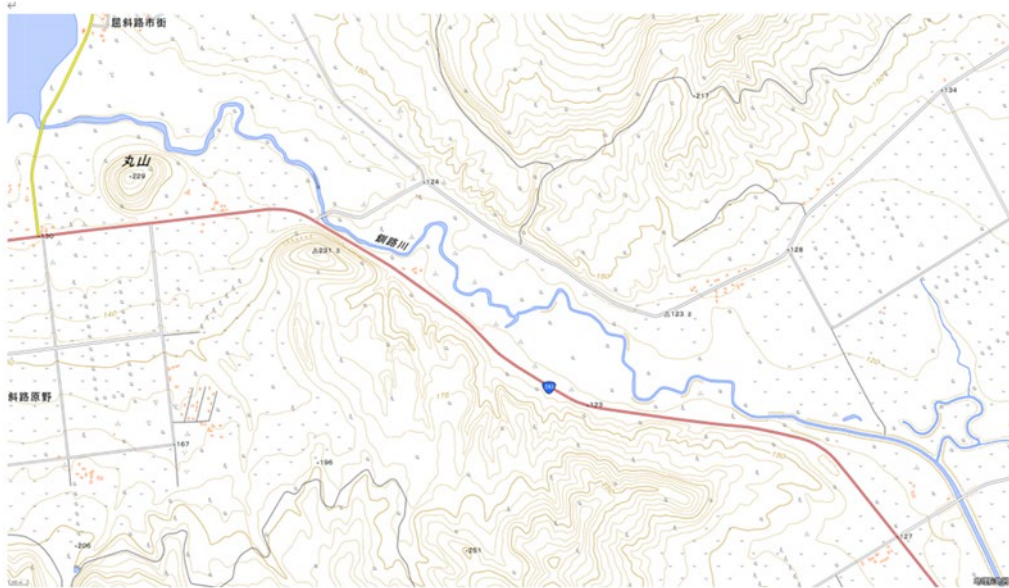
●モニタリング

- ・ 釧路川源流
- ・ 期間 5月から10月（毎月1回）

水温や動物トンボ

「鏡の間」と呼ばれる湧き水ポイントの定点観察

釧路川源流部モニタリング2025		月 日	天気	気温	風速	水位
水温	①屈斜路湖	②鏡の間	③休憩湿地	④みどり橋下	⑤S字湿原	⑥休憩湧水
	水温	水温	水温	水温	水温	水温
	⑦玉大湧水	⑧石狩別川	⑨びるわ橋			
	水温	水温	水温			



●モニタリング

- ・アトサヌプリトレッキングコース
- ・摩周岳登山道
- ・期間 5月から10月（毎月1回）

トレッキングコースの洗堀や噴気孔の変化

「アトサヌプリモニタリング」

5. 錦の丘の山側上部にある噴気孔



■モニタリング（登山道）：

1. 洗堀 1 （32cm） 43°32'54.88"N 144°31'40.62"E

※前回計測 32cm



洗堀内部にピンクテープなし

2. 複線 1 （要経過観察） 43°32'54.70"N 144°31'41.12"E

大きな変化なし **ピンクテープなし**



3. 洗堀 2 （35cm） 43°32'54.70"N 144°31'41.12"E

●課題

- ・推進団体（エコまち推進協議会）の形骸化
- ・事務局（役場）機能の人手不足
- ・ボランティアで行う事の限界
- ・「エコツーリズム全体構想」自体がわかりにくい
- ・モニタリング手法の確立とデータベース化
- ・メリットを感じられない

釧路川源流域ネットワーク ガイド同士の連携について



釧路川源流域ネットワークとは

- 1998年、カヌーのゴール地点問題から各事業者が集まり組織化。
「釧路川源流域ネットワーク」発足。

2024年現在会員数 19名（カヌーガイド15名）

●主な活動

- ・ 年2回のゴミ拾い活動
- ・ カヌー発着所の草刈や整備
- ・ 地元消防署や警察署との連携
- ・ 上級救命講習
- ・ リバーレスキュー講習
- ・ 地域ルール作成や検証
- ・ フィールドのモニタリング
- ・ 地域貢献（教育委員会との連携）
- ・ 倒木検証など



釧路川源流カヌーツアー

・ 釧路川源流部をカナディアンカヌーで下るツアー。
森と湿地帯の中をゆっくり下る。
水の透明度が高いので魚が泳ぐ姿を見たり野生動物に出会うこともある。

・ コース

みどり橋コース（約3km） 1時間半

¥6,000（一人）

びるわ橋コース（約8km） 2時間半

¥10,000（一人）

※時間とガイド料は各社で若干異なる。

・ ガイドカンパニー（町内） 12社（主に個人事業）

・ カヌーガイド 17名



経過

●1991年地元カヌー愛好者がツアーとして始めた。

1998年 釧路川源流域ネットワーク発足

2000年 北海道アウトドアガイド資格制度が始まる。

2003年屈斜路湖にてツアー中にカヌー転覆事故。（2人死亡）

安全対策等が整備される。

2004年頃からツアー形態が多様になってくる。

2009年～2013年「リバーフェス」弟子屈町民を対象とした川下りイベント開催。

●2017年

訪日外国人観光客が増加。釧路川源流など水辺の利用が拡大傾向に。

水上バイク、SUPなども増加

●2019年

事業者間で釧路川周辺の利用規定（自主ルール）を策定。

湧き水地帯の水草の減少、水鳥が少なくなっているという意見が会議で上がる。

●2020年

コロナ禍によりツアー数が激減。

環境省補正予算事業により、屈斜路湖、釧路川を広域にわたるゴミ拾い活動。

源流域の持続可能な利用に関する会議を開く。

釧路川源流域ネットワーク憲章・ルール策定することを決定。

倒木処理報告・検証の義務化、モニタリングなど、持続可能な河川利用の方向性を決定。

●2022年

自然公園法に基づき、屈斜路湖での動力船の乗り入れが原則禁止となる。

●2023年

コロナ禍収束。再び水辺は賑わいを見せる。SUP、パックラフトなど遊び方の多様化。

●2024年 カヌーツアーのスタート地点（私有地）の立ち入り禁止

釧路川源流域ネットワーク憲章

1. わたしたちは、釧路川源流域の自然環境保全と利用のバランスを常に考え、活動します。
2. わたしたちは、地域とのつながりを大切にします。
3. わたしたちは、様々な立場、様々な利用者の方との対話を大切にします。
4. わたしたちは、わたしたちの考えや活動の情報を発し、多くの利用者と共有します。
5. わたしたちは、次の世代へ川の魅力を伝え、美しい川を継承していくため川と調和した暮らしの在り方を提案します。

釧路川源流域ネットワークの活動目的

～釧路川源流域の自然を守り次世代へ残していくために～

〈釧路川の価値〉

透明度の高い水。水辺を中心に暮らしている野鳥や野生動物。川を覆うように生い茂る樹木や倒木、水中の水草。そこを住处とする魚や水生昆虫。「釧路川源流域」が持つ独特の自然景観に多くの人が魅了されています。

〈釧路川源流域ネットワークについて〉

釧路川源流域ネットワークは、「釧路川を大切にしたい」という共通認識のもと、釧路川源流域で活動するカヌーガイドを中心に、様々な立場の個人及び団体が構成されている組織です。

釧路川源流域には様々な人が集います。釧路川の風景や水辺に親しむ人、釣りやカヌー、カヤック、SUPなどのレジャーを楽しむ人、農業や観光業等に携わり川とともに生活している人など、多種多様な立場や考え方の人が釧路川源流域ネットワークの構成員として釧路川に関わっています。

〈釧路川源流域ネットワークの使命〉

釧路川源流域ネットワークの主な構成員は、継続的に釧路川を利用し、観察しています。20年前にはあったはずの植物。いたはずの魚。川の流れ水の質や量の変化。何が原因かは断定できませんが、釧路川源流域の魅力が少しずつ損なわれ変化しているのは明らかです。

このような状況下、まず釧路川源流域ネットワークが率先して源流域の自然環境や利用環境に向き合わなければならないと考えます。

「我々の利用方法は適正なのか？」

「未来に向けて持続可能な行動なのか？」

「オーバーユースになっていないだろうか？」

損なわれた自然を回復させ、次の世代にも恵まれた釧路川の自然環境を引き継いでいくために、我々は今何をすべきでしょうか。今一度「釧路川源流域」のあり方を考え、行動していくこと。それが我々釧路川源流域ネットワークの使命です。

釧路川源流域の利用ルール

～釧路川源流域ネットワーク所属事業者向け～

1. 「鏡の間」と呼ばれる場所は、湧き水で形成される独特の景観を持つ人気スポットです。はっきりした原因はまだわかりませんが、20年前と比較すると湧水量も減り、藻や水草なども確実に減少しています。このことを踏まえ、以下のことを徹底します。

- ・奥まで侵入しません。
- ・水中植物を傷つけるので、なるべくバドルは使用しません。
- ・水中に降りたり、周辺の土地に上陸しません。
- ・釣りをしません。
- ・長時間の占有をしません。
- ・写真撮影など鏡の間の様子を記録し、長期的なモニタリングを通じて環境維持、修復の取り組みに貢献します。

2. 釧路川源流部は、水辺を生活の場とする野鳥や野生動物がたくさん暮らしています。繁殖や子育てなど重要な場所であることを認識し、配慮、思いやりのある行動を心がけます。

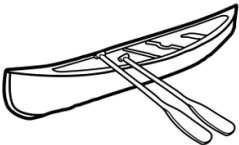
- ・野生動物を驚かしません。
- ・故意に大声を出しません。

3. 釧路川源流部は倒木が非常に多い川です。行く手を遮るように倒れた木、ワイルドなこの川の雰囲気損なうことなく、ここにしかない釧路川源流の魅力にこれからも触れてもらえるように努力します。

- ・自然景観と安全性を両立させるため必要最低限の処理・整備に留めます。
- ・処理・整備した場合はモニタリングシートで必ず報告し、構成員で共有するとともに、データを蓄積し、継続的に検証します。

4. 眺湖橋、みどり橋のたもとにある広場は私有地です。地主さんのご厚意により使わせていただいている状況です。このことを踏まえ、以下のことを徹底します。

- ・眺湖橋広場には、トレーラーを放置しません。
- ・車両や用具の置き場にするなどして長時間占有せず、他の利用者に迷惑をかけません。

釧路川源流域ネットワーク	2024年度 活動報告
	川とともに歩む 自然を守り未来へつなぐ使命 
	所属名簿 國分 知貴（リバー＆フィールド）【会長】 藤原 仁（リバー＆フィールド）【副会長】 土田 祐也（SOMOKUYA）【副会長】 鍵野目 純基（yarinome）【事務局】 奥田 志保（屈斜路湖 SUP CLUB）【事務局】 青木 崇（chipyaku） 伊美 明徳（一般会員） 荻野 峻宏 甲斐 陽平（リバー＆フィールド） 金川 智志（freetrekers） 齊藤 哲治 作田 純（J factory） 祖父江 健一（ぢぢカヌー） 曾和 裕晶（SAWAKKA） 土屋 重俊（リバー＆フィールド） 橋田 隆浩（Nanook） 平塚 一明（ノースイーストカヌーセンター） 森田 和義（matatabi） 守屋 憲一（弟子屈町役場） 湯本 芳博（リオカヌー） 横倉 啓（玉川大学） 吉田 聡（屈斜路エコツアーズ） カヌーガイド事業者が中心となり、SUP事業者2名と弟子屈町役場職員さんを含むメンバーで構成されております。  美留和橋  源流域ゴミ拾い活動  源流域ゴミ拾い活動 ● 釧路川源流域ネットワーク憲章 ● ネットワークの活動目的 ● 源流域の利用ルール 
1/3	

釧路川源流域ネットワーク	2024年度 活動報告
	川とともに歩む 自然を守り未来へつなぐ使命 
	年間活動内容 ● 源流域ネットワーク総会(4月16日) ● 上級救命講習(4月16日) ● 川のゴミ拾い(4月17日、11月20日) ● フィールド草刈り(6月5日、7月12日) ● 合同ガイドトレーニング(4月26日) ● 環境モニタリング調査(6月～毎月) ● 公民館講座カヌー体験(6月22日) ● 弟子屈高校カヌー体験(8月26日) ● 倒木処理の共有と検証 ● 関係機関との連携 ● 出艇場所に伴う緊急会議  源流域役員以外の会員は、倒木検証・ゴミ拾い・草刈り・ガイドトレーニング・モニタリング調査の5つの部門に分かれ各担当毎にリーダーを配置し、活動を支援しております。  合同ガイドトレーニング  合同ガイドトレーニング  源流域ゴミ拾い活動
2/3	

釧路川源流域ネットワーク	2024年度 活動報告
	川とともに歩む 自然を守り未来へつなぐ使命 
	<u>釧路川源流部の倒木</u> 倒木が非常に多くワイルドな雰囲気のある自然景観を損なうことなく安全性を両立させるために必要最低限の処理・整備に留めております。整備が必要と思われる場所は会員で一度検討をし、処理・整備後に報告書を通じて共有しシーズン毎に検証します。  <u>弟子屈町公民館講座・弟子屈高校カヌー体験</u> 地域の方々に暮らしと隣り合わせの豊かな大自然を感じてもらい自然への配慮や地元の魅力に触れていただきます。 <u>今後の源流域の課題</u> 2024年度はカヌー出艇場所の変更に伴い何度も会議を重ね、今後の対応を考え続けました。カヌーツアー以外にも全国各地から釧路川源流部を下りにくる方々への対応を含め引き続き模索します。 また、野生動物の減少や水位の変化など環境に目を向け今まで以上に周りにも自然にも思いやりのある行動を心がける必要があります。 2025年4月作成
3/3	